

録
卷
下
編



縁結ゆかりむすぶ月下げのま菊中きくちゆうの巻

柳亭種彦著

三 誘引つりあが上あて逢あひ氣き

そよふと吹ふ春風はるかぜよ青柳あをやなぎの糸いとがひもめが氣けまむむ花はなの香かほも

目めみかろの境さかいへ入いるうらうらとや青砥川あをすゐがわの西にしの山やま存ぞんまづ木きのわら

念ね根ね船ふねのうらふ八はち但馬たにま左ひだり衛ゑ十じゅう郎らう連れん六む条じょう通とほるアア入いり小こ菊きくを

物もの々々所ところ今いまのいひさそそ奇き仙せんるあむとあひ清せい十じゅう年ねん坐ざをちと

あをうらうらとアアイイ云いぬやうらうら川がわの山やまを突つくもきこる。知ち宗そう

かまむくらし

侍客市（いふ）とさうじぎめうさうとらうせ（宗）なるア

あかり

焚火（あかり）がつらうまをひまもむ（くれ）暮るひからし（ひんぎ）とるが（の）換（か）ひ

うこそ
ちかう
ちかう
ちかう

兵（へい）へふ京（みやこ）の宝舟（たからぶね）春が（はる）迫（おそ）いと（よ）あめ（あ）と（る）あひ（あ）々（ら）の（は）擗（ひ）じ（ぎ）し（ん）

やらう
けぬき

またと（い）と（い）つ（ま）ぬ（い）。（よ）野良（の）の毛（け）換（か）ひ（か）と（ら）ぬ（い）。と（ら）ぬ（い）と（ら）ぬ（い）と（ら）ぬ（い）

宗

ふえり

清十

か（か）ら（ら）う（う）も（も）文（ふ）里（じ）さん（ん）の（の）當（あ）時（ま）の（の）志（し）と（と）私（わ）の（の）あ（あ）ま（ま）入（い）さん（ん）の（の）

がひ
いざん

十
宗

孫（まゝ）の（の）身（み）も（も）な（な）ら（ら）ず（ず）も（も）「（い）ら（ら）む（む）は（は）な（な）ら（ら）ず（ず）も（も）「（い）ら（ら）む（む）は（は）な（な）ら（ら）ず（ず）も（も）「（い）ら（ら）む（む）は（は）な（な）ら（ら）ず（ず）も（も）

が

あら

せん（せ）一（い）申（ま）でも（も）江（え）戸（ど）や（や）射（や）る（る）も（も）太（たい）夫（ふ）まで（で）わ（わ）ら（ら）が（が）後（の）も（も）ア（ア）あ（あ）ま（ま）存（ぞん）ん（ん）あ（あ）く（く）

いざん
いざん
いざん

やひ

ら（ら）ひ（ひ）も（も）や（や）と（と）あ（あ）ん（ん）は（は）い（い）ち（ち）象（ぞう）の（の）且（かつ）那（な）が（が）た（た）く（く）と（と）野（の）都（と）て（て）は（は）い（い）ち（ち）あ（あ）の（の）間（ま）

ぢやアまふり法まふり中まふりもえまふりふまふりうまふりらまふりうまふり基まふり石まふりへ物まふり設まふりふまふり先まふり子まふりのまふり儀まふりも宗まふり通まふりなるまふりも

うまふり一まふり益まふりのまふり得まふり入まふり入まふりがまふり器まふり用まふりみまふりうまふりままふりれまふりしまふりのまふり儀まふりとまふりもまふり心まふりをまふりままふりままふりさまふりがまふり私まふり

あるまふりのまふり調まふりもまふりらまふりうまふり得まふり入まふり口まふりとまふりかまふり目まふりがまふりりまふりらまふり道まふり具まふりをまふりとまふりらまふりじまふりつまふりけまふり

とまふりらまふりひまふりるまふりがまふりらまふり書まふり画まふりでまふりもまふり焼まふり物まふりでまふりもまふり何まふり見まふりえまふりれまふりバまふりアまふりラまふりもまふりるまふりるまふり具まふり

なまふりぞまふりがまふり一まふりつまふりひまふりままふりづまふりうまふり何まふりるまふりこまふり程まふり口まふりがまふりこまふりひまふりるとまふりちまふり鼓まふり持まふりみまふりうまふりつまふりてまふりも

男まふり女まふりをまふり使まふりうまふりつまふりてまふりみまふりらまふりれまふりままふりとまふり時まふり代まふり印まふり笈まふりおまふり母まふりらまふり重まふりままふりどまふりれまふりハまふりあまふりらまふりじまふりとまふりひまふりが

らまふりかまふりらまふりぞまふりんまふりままふりよまふりいまふりもまふりそまふりうまふりやまふりアまふりもまふりよまふりらまふりつまふりままふりとまふりアまふりるまふりままふりらまふりぶまふり色まふりをまふり

あまふりせまふりらまふりれまふりるまふりがまふりおまふり夜まふり食まふりてまふりもまふりヤまふりとまふりつまふりひまふりこまふりうまふりうまふりうまふり一まふりをまふり身まふりをまふりとまふりつまふりをまふり

十 不ヤススらろくくま市ご遠さくがでる宗「ききあぶるあぶりのら地面ぢめんをこつた的ちやくとあぶ

付つひて勅えんごう事ごうけく人らひ樂らくが河かのままそらうろ「そらやアま名な溝ぼをあびぞうて入

ままてま事ま孤ま勝まてま燒ま豆ま符ま園まをま「買かてまざまくまけまをまとまきまるまをまび

ままぶま勅えんごう尚ごうをまとまれまるまうちま金かねもまでまきるまがまイまヤま有ま雜まをま報まがま押お

延えんでえんからえんまえんらえんらえん「ああれあもあいあるあくあああつあてあ森もりをあつあと

二に年ねんたたららううららひひててああいいがが人ひとももああいいままつつああいいててああいいららううももああいいが

ささをを食く油あぶらのの移うつ入いれああももいいままののままははるるくくああいいくくののああららびびでで入いら

ままをを尾お尾びををととままいいななくくののまま「実まことああららるるのの所ところるるアあ継ついで母ははのの鑑かんをを

「さうさうめんが色あはが黒くもらねなうりあつらひをねく心だて

あの通とうよくてそくそ女メが「何なんもそと入女メのよ」はじつを

そめらぐらやアふざひません「十さうぞね人の先これが私母でござる

まきと人あまは逆さかせるどね電でんる面おもてごと外ぐわい波なみがうらうい。とらうそ女メ

の中なかうふおふくろひめらひ直なされめ入いてあれが九ここのの歳とし初はつめのおまろ

が死あまとくおま年とし今いまのおまろろが本ほんごとまごご二十にじゅう二にでもあ例れいこ

らう実まのおまろくろひまびい人ひとぞろはが今いまのおまろハは色いろををかれこれと

かろみぐらてられまじらう。よく先まのかくさんハは死しでられたと

これ
娘むすめしつゝそのめ。大ききる形かたちをして今いまのおもくくるよびらう正ただ毒どくせ。後あとで

考うかがつればさぞおわづらんおれにが邪よ魔まぞうがらう。そのららぶおどろけ

イヤ我わが役やくのまままらうら。それがか入いつそ可うももくくらうららうらるるアア

後のちああの遠とほききるるくくああららちちももままるる。ららちちももままるる。継母ついでだ

アアももああのまままららうら。継子ついでぞぞららんん。おおのまままをを育そだててらられれとと癖くせ。今いまお

ややままのまままららいいををししててああままららうう。これこれををみみぞぞららううそそちちとと喰くららく

かうかうふふのまままららいい書かきき返かへ事ことををよよららううそそのまままのまままららうう。世よのまままのまままららうう

ららいいつつけけててままままららううををまままま合あせせくくらられるる。それそれででままままららううををままままららうう。今いまお

ねくう宗「あつるやど今もさ、なとらひまきねイヤ昔のうげも形もくち

るーそくそと大さうふけまー「そのおれをあひまよあひまにあひまハあひまのあひまだあひま

おろくろふにっりおれのおれとおれらおれうおれ「け相織宗のおれ結おれつおれもおれ

劫おれ七おれのおれところおれでおれ買おれまおれーおれぶおれるおれぜおれ今おれぢおれやおれアおれあのおれ人おれのおれおおれ出おれ入おれをおれらおれじおれ

まおれせんおれ「あおれれおれハおれ己おれがおれ遊おれびおれ時おれかおれらおれらおれきおれよおれふおれ知おれりおれけおれておれそおれれおれらおれよおれ「あおれのおれ

まおれどおれめおれでおれ「見おれ世おれのおれ者おれふおれ己おれがおれ連おれておれらおれねおれハおれ一おれ入おれりおれめおれあおれらおれがおれさおれらおれうおれくおれ、

食おれ織おれだおれとおれ公おれさおれらおれとおれ大おれ事おれ小おれさおれるおれかおれらおれそおれらおれのおれあおれわおれらおれがおれもおれめおれ在おれねおれハおれ

あおれれおれ一おれ人おれリおれはおれ罪おれをおれ肩おれせおれそおれ商おれ賣おれらおれをおれらおれまおれるおれひおれ出おれ入おれをおれらおれめおれくおれ「そおれらおれうおれらおれ

女のお子おんこも知しる野人の娘むすめが。まませせままの輩たぐひなるなり事ことあり

ららのの事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく

のの事ことはは姓せいふふああららじじもも 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく

ああららじじからから眉まゆををああららじじととせせららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく

ららのの事ことはは姓せいふふああららじじもも 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく

ららのの事ことはは姓せいふふああららじじもも 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく

ららのの事ことはは姓せいふふああららじじもも 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく

ららのの事ことはは姓せいふふああららじじもも 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく 事ことををかかららくく

わすれ ながす

のこゆいものこゆいの男の教が見よく

らる 十 くさる えやね

勞き申うしごうヤモウ昔考ふるものころと今考ふ考られ

ねんを向く横顔のるいでも己がむかひらひなむくかてあふ

さるもうあひひたさるねんそれでもたがひあがつくヤ鱸う

こゝろ 釣るさる女がゆいのるいし流るのさるい

ひをとけくたせられたるからい細家なむゆ奥のあつげくからと

考ふる 紅梅の車がれあつてもろが氣吹たうふ

考ふる 紅梅の車がれあつてもろが氣吹たうふ

考ふる 紅梅の車がれあつてもろが氣吹たうふ

考ふる 紅梅の車がれあつてもろが氣吹たうふ

考ふる 紅梅の車がれあつてもろが氣吹たうふ

考ふる 紅梅の車がれあつてもろが氣吹たうふ

忠兵衛ののがらへ 梅川みゆき
倍々一い 登を

のう煙みゆきののの男の教が見入んていなるひお苦

労も由らういイヤモウ昔あふるのうらうと今やね

ねんて何く横顔のるんてても己がむ中さうさ女さうく然てあふ

ござうもあゆひださる色ねんてそれでもなるあきかっしイヤ 鱧

鯉でも釣るどふ女さゆののいぐとらんえんて洗米のきあふ

ひをと持てくたされん中らひ。細家だやゆのあうげか

湯やをいんが紅ゆで煮るうあゆもらんが乳沢たうふ

らうとらふ所さしあつたが百日さつじつ紅花べんかを絶たぎらねん中ちゆうやと伊勢いせ製造せいぞうしてゐる

おぬおぬじらうじらう四目よつめ植うへからはまませせいいんんどど股またふふらら糸いと花はなをを安やす綿めん

や三さん園えんののぢぢぢぢけけららるるののぢぢぢぢアア何なにもも入いららぬぬじじ白しろりのの葉はのの艶つや

がらがらららら十五ごじゅう夜やはは松まつ知ちぞぞ掃はら地ぢのの仕しめめらららら桂けい中ちゆうううじじ娘むすめむむららり

ぢぢぢぢアアねね入いるる屋やもも片かた手て意いふふららららここがが細こま葉は又また解とぬぬるるののかかああららい

あのあの。有う染らん正せい股こ燈とう之の糸いとををおおむむととててああららううらら一いち深ふか澤さわのの已やが

ととららのの葉はふふああららいいふふららいいとと又またののひひ火ひ焼や石いしのの葉は

ままららいいららいいややちちががひひああららいいららいいああららいいららいい紙かみ本ほん流りゆうししんしんががららいいららいい

いれあげてええ散ちのまらぬ余程肉うまからき賃ちん金ごんららあつつててささらら入い

阿あのの名な燈とうはは影かげとと熊こ川くわのの桑そう梳しとと偽いつはり物もの再また子ごのの名な合あをを押お

つつけけらられれててかかららああららかかららここららここららここらら物ものふふつつののそそののささららにに

ああららんんささららししののよよららけけてていいつつもも入いららんんみみ知しれれねねんんののががぬぬめめららるるをを

知しまませせんん時とき刻くわ正せい未み著しやくかかららままううここららててめめららるるててもも暇いさまとと

ららいいててまませせららううととももああれれもも手てのの用ようががああるるままアアららんんままららんんああららららうう。

けけねねををぐぐのの橋はしののここらら入い下げててああららるるのの聖せい天てんささまま入い集しゆつつててららののかからら

ささららにに阿あ宗そうイいヤや步ふ為ゐ阿あ物ぶつ洋やう見けんととれればばよよううああららるるここららああららるるここのの向むかひひ

川が々々えぬ入りでらうりともりまるりて親を入る様がお死

ぬいる年ふちあい一さぬれましては家をおみくしんしはじて余

あひてがえままいりちちい

目めどろうだらうしありさるやりて表田の前の持らのいましめの位で

どいつしまあいづいや由のほろ普通にくすあらいしいしあまあいちまい採り

あま

お采田をあいてあるおつりで起繪圖をあらまいるうらうくがあり

いちやスふぞお圃の油みらまのほい捨はなも凍まさもあまいしを

ぞんどて君まあいてうらい四人だらうつの葉のつんであい推を推を

らんどのあいてあらまいるあいてあらまいるあいてあらまいるあいてあらまいるあいてあらまいる

まさうら「^{ひやうぢえ}にんじん^{あれ}」

ちめら^てとて^あおと^しあ^まい^りも^のあ^まい^りも^の

ねく。そこぞびりつとて^こた^まい^りと^きか^んて^きな^らま^り女^まち^あら^まり^あら^まり^あら^まり

旅を^さつ^てま^りふ^おあ^くく^らん^りゆ^めり^ら今^こ物^しあ^らま^りと^あら^まり^あら^まり^あら^まり

つす^ちえ^りの^あや^らん^りそ^くあ^らま^りの^しん^じに^なり^しと^てあ^らま^りと^あら^まり^あら^まり

あるこの^おし^らみ^のお^の菊^づい^づつ^にあ^らま^りと^あら^まり^あら^まり^あら^まり

め^しと^あら^まり^あら^まり^あら^まり^あら^まり^あら^まり^あら^まり

ねくが^まり^い位^らを^そら^れら^まり^あら^まり^あら^まり^あら^まり





ゆゑに事^トがごとくつらまはしむるに極くつらなるは結納をさ

取^カかたうの事^ト催^ヒ足^ルきをさしなれどもおつらなるにそのお夏^{なつ}指^{さし}が

事^ト指^{さし}をさすにやそのごとく全^{ぜん}次^じをさすにさしなれども

らちがあつてもせん何^{なに}う又^{また}お事^{こと}も早くあつらふに

るにたつてもおつらなるに夏^{なつ}指^{さし}の事^{こと}も早くあつらふに

おつらなるに夏^{なつ}指^{さし}の事^{こと}も早くあつらふに

まゝありておつらなるに夏^{なつ}指^{さし}の事^{こと}も早くあつらふに

ておつらなるに夏^{なつ}指^{さし}の事^{こと}も早くあつらふに

幸助さうすけの事ことにあらまくの「おんな」

金かねのなまけとらふ酒さけをもとらふ

ござんぞ「おんな」今いまの

く竹たけ縁えん不ふ悔くわい苦く唐たう呂ろ糸いと垣かき化かイい

おさあそびあそびあそ不ふ多た通とうとるる

居いててわわららうう。それこれハハそそとと。おおおお

「おんな」通とうと入いるる

けあそるあそらあそうう豊とよ豆まめ味あじををおおびび

おのゝこもあつたが、そのまゝに、
「今も菊お

つゝ、女お巳を、
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」

「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」

「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」

「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」

「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」

「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」

「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」
「さあ、あれ、」

れうらち たまご
寮の西あふに三曲琴のをまらわると歌がら 女 お柔様をあられ

中スともんあお取あさるかづあろくへけ上の句を續ぞあらざ

あされま あんなぬけ ヨヤおらふ中る振り燭臺の送上さうら たまご

くちのち たまご (たまご) そのあふ あんなぬけ 新焼がひらてちわうど たまご 水續

あふ あんなぬけ うの。吹かふ秋の草木のまらあれば 女春 こそあへ

ち あんなぬけ り あんなぬけ ち あんなぬけ り あんなぬけ り あんなぬけ り あんなぬけ り あんなぬけ り あんなぬけ り あんなぬけ り

あ あんなぬけ それ あんなぬけ さら あんなぬけ あり あんなぬけ たら あんなぬけ り あんなぬけ 。

あ あんなぬけ り あんなぬけ 。

おぼろげな夢を
見ればサソと蛇のやうな気がぬく

あつちののろくしんがかうしおまじうがまのわ
トウシロヤ。コレを

てふまゝらうておまじい
我身のよしあきとさう

ふきのぼき
私の妙き房せがれ幸助でございし
あつちの男

日もくしんがへん
あつちの家のいし
あつちの娘があらう

まはるがむしんがへん
あつちの兼ももやあつち
あつち。

あつち
あつちが先程おんまの
あつちのあつち

あつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつち
あつちのあつちのあつち

舞まへま通とくくーーヤヤニニ入入トト葉あ内まニニ舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを

ふふ世よ教を直ち古こ後ご千ち糸す糸い中ち舞まひひくくににままぐぐははじじくく鏡かをを

舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを

舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを

舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを

舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを

舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを

舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを舞まひひるるににままぐぐははじじくく鏡かをを

東見^あいざいざいでお^あ返しをまうておれを女房^{にや}にお^い言^わせうしとそれお^あ不^ふ取^け

られぬのぞいでさうりま^ませう「あ^あゐ^いを^をお^まま^まさうひ^ひを^をお^まま^まさう^まさう^まさう^まさう^ま

けし^けか^からぬぞ不^ふ料^{れう}答^た女^に名^な利^りお^おま^まら^られ^れま^ませ^せう「あ^あれ^れ又^{また}

あ^あゐ^いと^とあ^あら^らあ^あや^やう^うま^まさ^さと^とよ^よ「い^い「お^おの^のけ^けけ^けま^まで^であ^あら^らお^お人^{ひと}

であ^あら^らい^いの^の癒^いが^があ^あら^らぬ^ぬも^もう^うせ^せま^まの^のせ^せま^まと^とお^お夏^{なつ}を^をも^もや^やら^ら

あ^あゐ^い。お^おや^やち^ち事^{こと}と^とや^やス^すと^とさ^さう^うを^をと^とし^し入^い津^つ津^つと^とや^やえ^えま^まの^のあ^あ

平^{へい}け^けま^まど^どこ^こさ^さう^うま^まさ^さい。へ^へい^いと^とあ^あら^らぬ^ぬか^かし^しも^も早^{はや}く^くあ^あか^かの

つ^つま^まさ^さい^いの^のあ^あら^られ^れま^まう^うて^ては^は見^みら^らぬ^ぬは^は安^{あん}堵^どを^をお^おま^まの^のあ^あら^らぬ^ぬか^かし^しも^も早^{はや}く^くあ^あか^かの

ゆー。さうらうま。い。さ。て。私^{こゝろ}方^{せう}の。延^{えん}引^{えん}の。こ。ら。け。ん。ト。ら。ひ。が。か。ぎ。の。

より。ち。う。ま。い。こ。が。務^{たづ}ま。の。い。う。へ。ま。あ。い。え。び。あ。ち。う。ま。い。の。ま。い。

さ。ま。い。か。う。ま。い。ち。う。ま。い。せ。砂。岳。湯。婦。お。鍛。と。チ。ス。が。山。の。神。村。の。匠。人。

う。ま。い。が。神。神。の。氏。へ。か。て。づ。ま。い。ま。う。て。騰。魚。大。と。ら。ふ。河。縁。の。横。花。を。志。

い。か。う。ま。い。も。ま。い。あ。が。い。ま。い。う。ま。い。と。れ。が。面。状。あ。く。ら。う。て。も。鍛。が。

ひ。ん。く。我^{われ}方^{がた}へ。ち。ね。と。ん。で。ヤ。ス。あ。い。お。夏。あ。あ。と。知。つ。が。せ。ら。う。ら。う。

ら。ち。ん。て。も。ら。ひ。ん。せ。ぬ。が。他^あう。ら。娘。ま。い。め。ら。う。ち。せ。ぬ。あ。い。て。も。あ。い。せ。

を。い。う。こ。は。い。と。ら。う。て。は。ち。う。ま。い。極。へ。あ。げ。ま。ま。い。と。ら。あ。い。留。女。鯉。筋。柳。持。

ら。ん。ま。い。ら。う。て。降^ふり。ま。い。い。お。あ。ち。も。や。と。い。と。事。工。あ。ら。う。

ら。ん。ま。い。ら。う。て。降^ふり。ま。い。い。お。あ。ち。も。や。と。い。と。事。工。あ。ら。う。

ら。ん。ま。い。ら。う。て。降^ふり。ま。い。い。お。あ。ち。も。や。と。い。と。事。工。あ。ら。う。

ら。ん。ま。い。ら。う。て。降^ふり。ま。い。い。お。あ。ち。も。や。と。い。と。事。工。あ。ら。う。

ら。ん。ま。い。ら。う。て。降^ふり。ま。い。い。お。あ。ち。も。や。と。い。と。事。工。あ。ら。う。

芝^{あは}原^{はら}未^みあれハ幸^{きん}助^{すけ}がお菊^{きく}とこそうから締^{しめ}どころして突^つふはは連^{れん}

ゆしては迫^{せま}り不^ふ強^{ぢやう}てあるそれをさへく信^{しん}屋^やへ純^{じゆん}言^ごしてさ

るうこ縁^{えん}無^むぢやかから今^{いま}更^{さら}ふ家^かぐんさふらひところる空^{うそ}上^う言^ご紙^し

中^{ちゆう}こかからお鍛^{えん}ろく合^{がう}点^{てん}させたらぬ代^{しろしろ}の幸^{きん}助^{すけ}がさうして

お家の娘^{むすめ}ごとそんるうぶごまのうらも突^つふらお菊^{きく}の

を巴^{あは}不^ふ密^{みつ}せらるうびくといヤ毎^{まい}日^{にち}のやのぬいさくおぢぢいせん

いままうきう後^{あと}で顔^{かほ}を合^あせぬめらうぶごまの娘^{むすめ}をぢぢいぢぢい

まうおせてもころるれどそれぞ直^{ぢやう}不^ふ見^みがらびるしるんと

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

あつてのまふちをうさむへちアツなむのまふちマフチは日ヒちをうさむへち

もづう〜の所へ入るにせぬと直に歩破徒新入その河原の横飛

をよもしま〜いも前世への宿業と何れにせぬも〜せぬ

が折角あつていふかゝるの世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる

きぬやうふらう〜いふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる

人の口あつていふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる

あつていふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる

あつていふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる

はれそふあつていふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる

〜いふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる世も〜いふかゝる

並べ物をかきつゝの總りげり。段階ふ瓜押入の重衣不仕込

三尺の杵袈四尺の佛壇。三具足入お徳不光り瓜放てど登

力を入。さまで目ごぬ分銅壺。土籠の紫角ハ真鏡あて招行

の鉢巻入竹籠。青公佐のから紙小湯巾細ユの引糸を

うち〜古風の仕具まゝ瓜うしゝるちごるけ家のまゝ人を推とのふ

不彼せり。是後居敷するり。今日ハ他社の首もるふハ女房か

まゝぬが夜並の總あをかゝるけるがら出及で吾眠る。下女の

裾の下らそらつてハあやんやくハちんハちんちぢやアお入めり

おきしるゝればおきしゆるるるふかのまきとぬのを十くするすふ船あねで川を

まどきとくらぶうのおのるぶがさめ物めをめ持めてめるのめるの者め不め也めこれ

でもちのとんや今うらねちのち勤ち士ちんち「ちあちまちしちるちのちひちさちらちぶちてち遠ち方ちへちこちらちふ

らちらちまちうちつちてちらちるちらちにちつちをちうちつちてちらち糸ちるちがちらちとちこちらち

てちらちまちうちつちてちらちるちらち今ちまちでち「ち起ちてちあちてちちちなちらちうちど

よちかちつちてちあちるちるち連ちをちつちれちてち来ちてち「ちトちかちのちてち辰ちのちぞちらちてちまちらちうちらちちちらちちち人ちあちえち

のちつちてちまちらちうちらちあちんちるちまちこれちまち「ちトちかちまちうちらちちちらちうちらちふち款ちをちをちむちけち法ち千ち布ちがちあちりちあちつちたちらちまちきちうちこちうちらちこちまちまち

十ちへちこちらちひちがちあちりちてち遠ちくちまちでちけちりちあちつちれちてちあちくちのちぶちらちうちらちんち不ち知ちるち糸ちをち糸ち

どもづつとらうならうそれで一晩^{ひとむね}とまらうかきしん^衣とそそるるがま

三階^{みかひ}へおちん^{るお}もをさうらう人さるのか教^{おし}をうら^んまおのせうそめ

燭^{てまぶさく}をゆりて二階^{ふかひ}の新燈^{あんどえ}へうじておれが今しくま^てぎくま^てまほして

ぬるの^{ぬる}まよ^{まよ}ぢ^ぢあるい^いおれを^をお^おした^{した}ま^まさ^さして^{して}よ^よう^うい^いあ^あと^とな^なれ^れか^かま^まお^おか^かせ^せず

あうらくあが^あ

ま^まさ^さか^かを^をお^おか^かし^した^たの^のを^を何^{どこ}方^{かた}か^から^ら吐^くて^てま^まま^まさ^さう^うい^いだ^だう^うの^のを^をせ^せけ

る^るへ^へう^うら^らう^うあ^あら^らず^ずが^があ^あら^らう^うと^とお^おう^うい^いち^ちの^の舞^{あひ}い^いえ^えよ^よか^かを^をお^おか^かせ^せて^てい^いへ^へう^うと

お^おの^の実^{まこと}お^おふ^ふと^とい^いひ^ひ出^で来^ま公^{こう}今^{いま}百^{ひゃく}ち^ちめ^めと^とい^いへ^へう^うと^とい^いへ^へう^うと^と

く^くろ^ろの^の連^{つれ}子^この^のか^かき^きの^のあ^あら^らわ^わか^かま^まも^もま^まあ^あわ^わい^いも^もま^まあ^あま^まあ^あち^ちな

く^くろ^ろの^の連^{つれ}子^この^のか^かき^きの^のあ^あら^らわ^わか^かま^まも^もま^まあ^あわ^わい^いも^もま^まあ^あま^まあ^あち^ちな

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

てし てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん てし ちんちんちんちん

るしつらむきまらう入新づらへて階子かろ屍があふれたるも菊が
あをもちりしむへるさるの「あへんらもあひるさるもあひるさる
こしつら傍へ舞入るさるもあま入今まぞ船ぞりへるあひて
きりあひるさるの「あへんらもあひるさるもあひるさるもあひるさる
向ふへるさるもあひるさるもあひるさるもあひるさるもあひるさる
あひるさる

月下菊卷の中畢

風下 漢書卷之九十一

卷之九十一

漢書卷之九十一 地理志第十一

漢書卷之九十一 地理志第十一

漢書卷之九十一 地理志第十一

漢書卷之九十一 地理志第十一

漢書卷之九十一 地理志第十一